



日本水代巻  
三

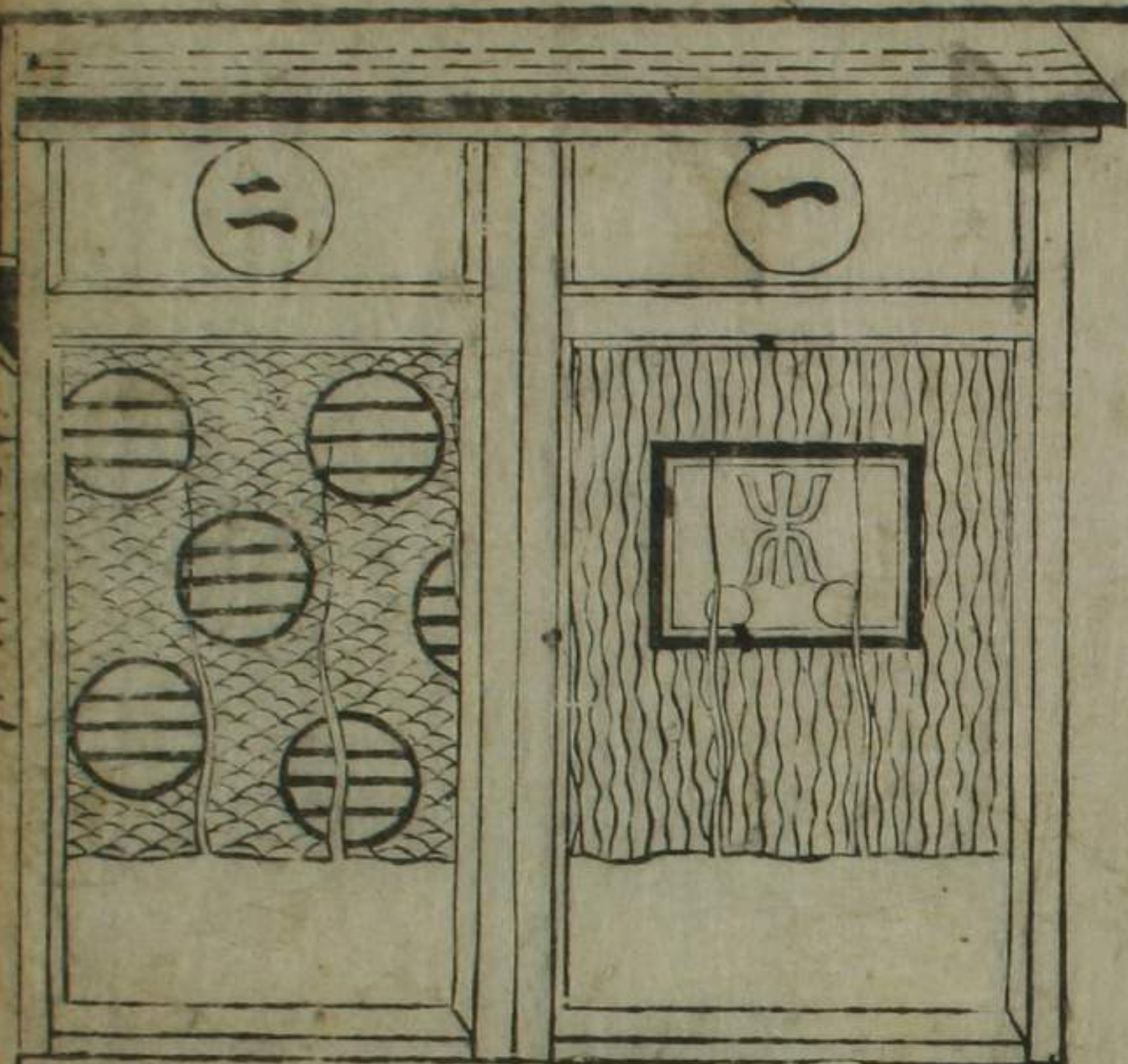
45  
1239  
8





ありけん きのよあぐら  
日本永代花

目録



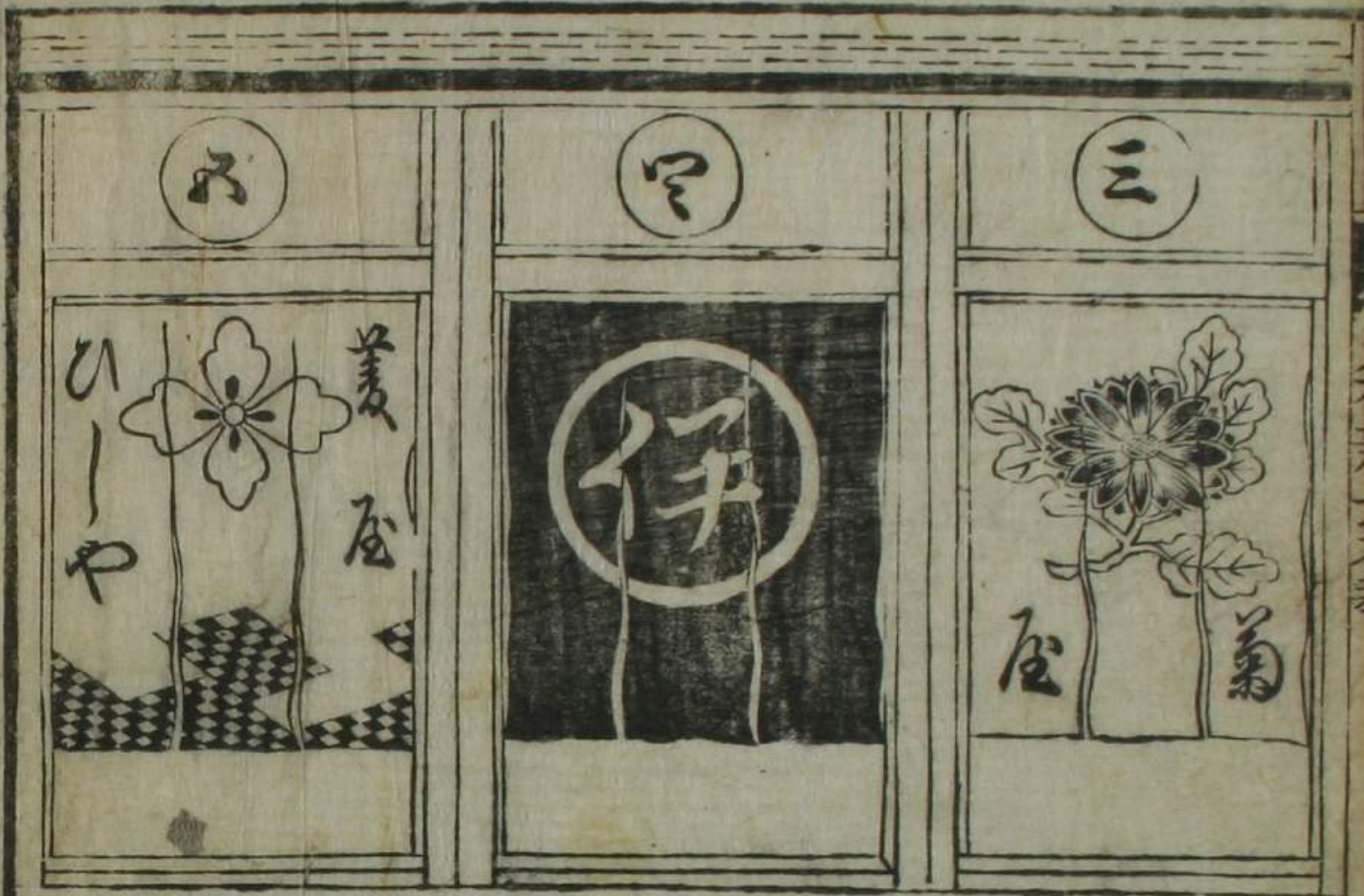
18  
1239  
3

巻三



燕見 子 み み み  
やうなるふかしの河内業  
江戸ふかしの河内業  
小松ふかしの河内業

圓見 子 み み み  
小松ふかしの河内業  
江戸ふかしの河内業  
小松ふかしの河内業



世に板敷れ親善多し  
 伏見に於てられたるは  
 貴種に當るがまじり

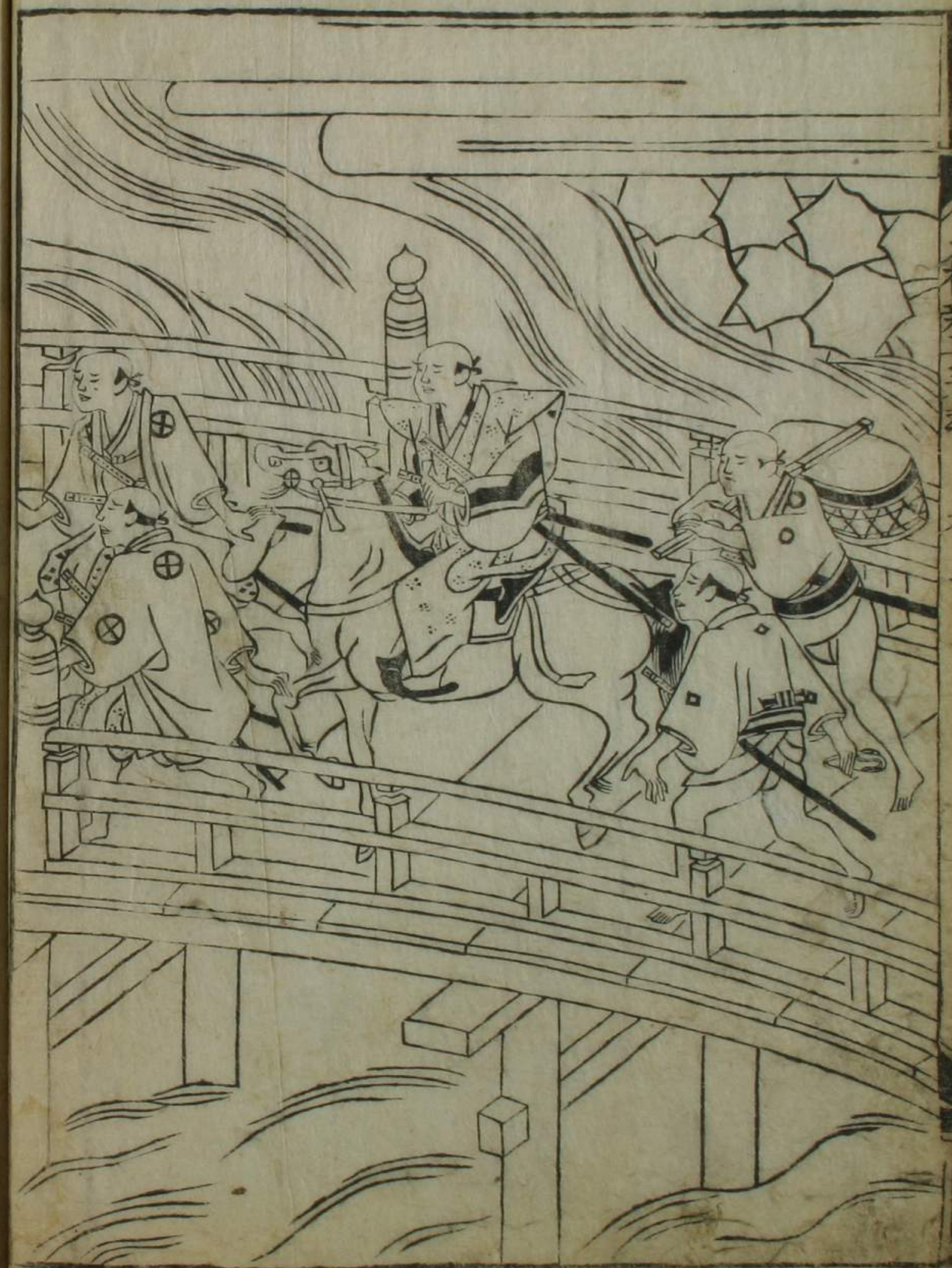
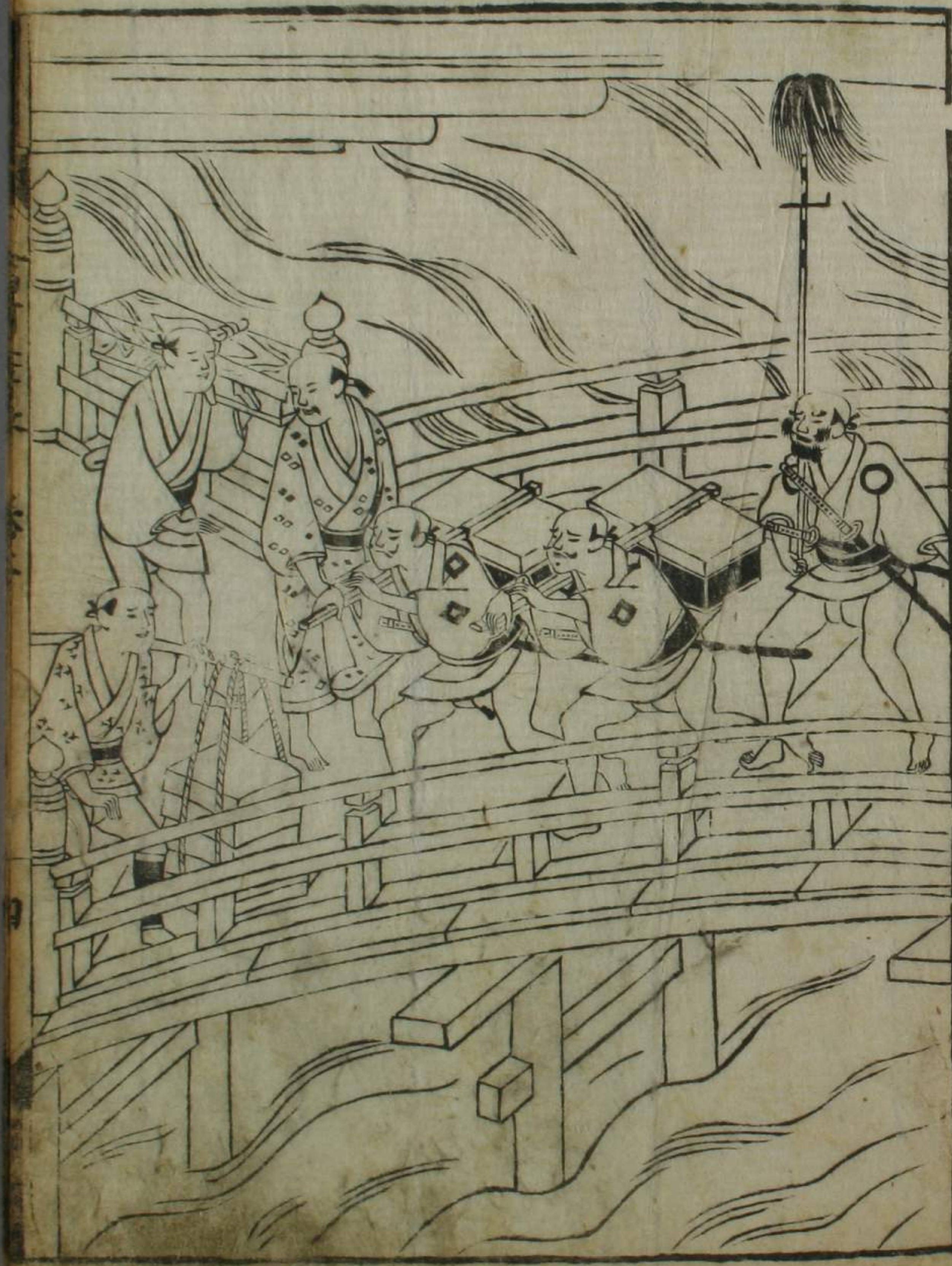
多野山借残場の詠  
 大坂ふかたれたれば  
 三世おどりありり

紙子御作乃破道  
 張河に於てられたるは  
 長尾の侍とゆふ

世に百回病の世に名譽ありく  
 くらとありく人の智恵あるは  
 とたよとせり療治ありやと  
 くれの今とそれとととと  
 うりく言さるるはよめ  
 いおありの草足はつと  
 とかり結りん長衣丸とつ  
 △朝起又△家職式十△衣  
 七もびく千ととととと  
 と入とととととととと  
 りのり結まはととととと  
 と不のり結まはととととと

子小可乃打囉○鞠揚弓者云連能○産後善清茶の湯  
 投奇○花かん舟控ひ目同呂入○表劣乃情爽其善變六○  
 町人の居合兵法○物参詣後生ん○流りの板清判、新  
 田乃折儀の金山乃中入○食酒善若好ん當の乃系  
 のり○物をお撲乃指かち加佐の折入○家業の外乃小  
 細六金の板目黄○役もよんてれ揚をよむ付○ハりも  
 備振先び通りと班指は表るより停表口よりつと扱  
 んおあひり色あられこり二年小治多つは気清金云と  
 懐び板福云乃表よれを物者油ひかく雨の流は戸あれ  
 の儀と云されいごとく高れおよいわり流ぬん云りかか  
 日本橋乃有治小曜より一日云りくく多るに流る流雲の  
 人の集り山色更小うくくくく系の祇園を云大坂乃  
 天儀奈小のりくくと毎日れ舞昌川市町居乃代の乃流

通り町十二居れ大乃下せれたくは橋れ上にも素一人出  
 家まき人堪き能物くく流と流るもくくされれ人の大  
 り小のらる物のおとふは流とをみりかく目に角云く  
 巨橋ひくくく色と云ふ小能よはくく之れ物おあくど流  
 角高賣小一橋出らんとの御こあぐくも振くから  
 りい今乃世れ中ふ流もれ降近り丸揚流くより外小治  
 りの物め一程前どして小判とをまおとらつる御か  
 何とぞ思れりゆとと氣と付んと碎中にを流く小治で  
 後流りは表大に居指流おのぐひとく小式百三百人屋色  
 ありありき吐一逆長笑あして天窓つれおりくく夜裏表  
 汚る為神口乃これ一内指織乃く小帯云く間棟枝小雲  
 色も大なる懐女腰乃居く一後付を職人とい着振め  
 小志れけり流くり番近童小流本屑とくけせるに可惜









大正新編長巻

大正新編長巻 卷三



不足りの御一々後世親目らして素れまゝの御子の何れ  
 花乃又若れ毒のいふくて花も人よ喜ひまおりの  
 女福れ故や山色川もらひぬ花れ故ゆとてかやり  
 あり同業として思合ふらまされどもと我ぬえのものと  
 毎日に御具一々気成故一々言ふれ花恨りもく  
 又りに事な十二人抱くまはまより居ぬとあはりの  
 善信更とあして朝の尾小金紋の  
 弁一三階の愛意度房のつとく大書院六十間  
 廊下東西小流の南に舞と世経西州と福一玉の  
 荷の度未うけ持阜小智舟乃まぎ終宿骨の  
 とひくも也持端乃打端一喜貝の御具玉飾入の  
 天書巻乃絶て付と外乃法様化一雅一君の約  
 聚乃天清と玄宗乃花軍とや門一府軍ととね

の事毎とたあの人かてとまの御中一屋して汗  
 花とあ方より金成の風に舞花風つとれ  
 花めひけまげらる方乃極れ地よりうの  
 一と對乃一系むく乃美もれもいとけ  
 花くうん及ぶも一因花はくも  
 一と家是と梅もくもさふあ  
 一人のまきのとせとてあうら  
 色もつらり一水世の  
 花れ御具とつとり小むあ  
 信ぬくもまらせ乃意と花あ  
 花角折れはあも  
 毎月波せとんぐり小  
 花とあはれは

湯屋風呂屋と暮る日毎小焼せけらびり子かえの  
浦と云ふに後れ塩釜れ大にあり是の部のあや  
揃小後れれれに因る釜れ大にさかPあうら  
追付物多乃煙後れれりゆと結し小案れれ一  
年乃言に忠勤定せし小ふ共目をれれ一  
そふ下れれれ不足出来そあまより経年守  
く千丈乃吃色帳記しりゆさるあ小減さる  
そり小案のああり一命とほるびせに結さる  
抱い人乃美さるごああり

奇念佛乃目言一と云ひり伏しれ上代の時依  
大なる成門朝とつてくわに全宿珠と結あ  
何より之近す棚物と削あてお梅乃枝れま  
あふれ浮雲と云のれ統いさあぐり小動に虎はれ  
まゝかろる勢ひんぬるさ乃二十三年と結あ  
ありくと美能と眼物小い法くあはるゆさる  
か一六十六万石三年乃物れ是し入るありは  
これと云ふをれれれれれれれれれれれれれ  
はありのし小是れれれれれれれれれれれれ  
作れ下平乃のりあや他り物とあられれれれれ  
車ととらわらむりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
足ふらららららららららららららららららら

奇念佛乃目言一と云ひり伏しれ上代の時依  
大なる成門朝とつてくわに全宿珠と結あ  
何より之近す棚物と削あてお梅乃枝れま  
あふれ浮雲と云のれ統いさあぐり小動に虎はれ  
まゝかろる勢ひんぬるさ乃二十三年と結あ  
ありくと美能と眼物小い法くあはるゆさる  
か一六十六万石三年乃物れ是し入るありは  
これと云ふをれれれれれれれれれれれれれ  
はありのし小是れれれれれれれれれれれれ  
作れ下平乃のりあや他り物とあられれれれれ  
車ととらわらむりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
足ふらららららららららららららららららら

車小わりの乃系木とあひくぐりて 群長う塩中一全れ  
大空のれそ念色境まで 氣沸とりのとむ神なり  
りや小判小碎と一生樂いと世とりの所とれとるれふ  
とられんは小貝とらとらつ 冥林れ目れあふひとてしや  
さうとくおとらとたれ此の速宣徳のびくと新おとらと  
て人尸あつりて日暮傍とそとあつく今小居とら  
一し何乃無冒小のりり在終乃終の辛留とありとる  
寂らに梅林とらあ咲まの人も住くとあれとるははら  
とらと梅橋とらと堂と出づれば風情あり糸海乃の背あり  
てん世凡付と所ありあり片路の崩れとらと人備はとら一  
町小三おむりりかところある朝夕の煙故をのり夏乃秋  
薄團りのたのそと漸くよとららぬ高荒吹矢乃細く  
はとらと居とらとわの丸青乃在根乃梅庭乃要利と愛

と削りて糸繩なしの賣とれとて細きひ令つつかたれす  
と世にほのそと多し町とらとたれ菊庭乃若花と  
とる蟹乃庭ありとら因花とらとと車乃かりりと持  
ひとら物並ぬ色花ぬ色とたれとらととていとらと  
て武百目小とらとぬえ花とてと花とらととらとらと  
大とらとて海とらとらとらとたれ賣とらととらとらと  
とらとらととらとあり海とらとらとらとらと古傘一本と  
とらとらとらと朝合境とらととらととらとらとね明茶と  
とらとらととらと百あかりのりとも六月とらとらとらとら  
とらとらとらと二幅ひとらと小と下かりとらとらとらと  
もかまつとらとらと八十とらとらとらとらとらとらとらと  
かとしと年とらとらとらとらと二日とらとらとらとらとら  
とらと佛一和とらとらとらとらとらとらとらとらとらとらと



大福新長者巻三

申すに十三乃びじりあきりたのり小坊まき界階まみりた  
と臨向彫く小赤てととく強三十五かりくこととふかこ  
見世にわつあまみ合ふ米本実く城の梅色のをか  
内徳をうへるる人か小意く洞中一不真まの申すく  
ふまうてふのぬ高貴是程もかふのなすられぬ色  
唐人判味味わつるふたすく控乃西りたる小掛なる  
子費用のめ色判ひのりことりあけるよとと入  
あられる判といふ物にれれ大分おりけ菊庭の六年  
は新式費用あまりは出か一と紙ひとくく人よ情や  
ふくことと足りてあつる東和南乃ちの海のととと  
大者れあふ多循とと神紙紙ひのりかなくあひ出  
はる海男まの物紙の紙多紙信心一係小あまきと  
こふ紙人の氣もわれとくわつる物く世るめく是と

とくし申すれは同徳七日と古代より判金一紙づり  
換あわたりとと菊庭式費用乃り判金一紙と三交まき  
用紙にれれば紙坊とと一わ一山よ庭と空傳へまき  
あはは生孫がひ古今よ三交ととと人志と乃同徳か  
ととのP使つる時ととけけく産徳ととと小けま  
くとを早あして一強つととと十強あつびと用換か  
くわけおろしよまとと外徳とととかりとと菊やP  
Pの紙とびく同徳ととと小産徳かととと換けけ  
とと進よ紙ととと掛らんとのあ信申とととととひ  
紙より金箱とととととととととととととととととと  
ひけあつた産徳ととととととととととととととととと  
ととととととととととととととととととととととと  
かつる山産徳Pととととととととととととととととと

清き水乃を色づけ乃を雲風の外に種樹のり  
是もかたまりの業入乃皆毒具切も愛く侍小大  
乃金指とりく家業入六百貫目と賜り精果毒  
か親言伝作のありと是ととてにあらそ  
色もつれ男一とびのりすまふり志がえ来し  
あれた分治むしより済すくわらびく後  
系橋小むくくそりあしより傳愛乃焼耐伝  
わさひ色幸いも人の酔えれぬ世を

高野山借銭堀乃旅主

物よ六町帝花の咲人乃れ生花あげく癒たるり  
あしどと癒れを命い書生れ一人あり毒魚と知  
あぐり纏計はし上風味からして藻魚のり  
何乃氣をあらうと女房の縁組乃り下めり徳母  
あゆまで多代とせりとを那小あどるぬび  
あかつとつゆのあく一生換りしあれい人  
是を命いさふありと堅作り乃親にわらひれ  
其見ゆりきむり難波乃今橋あふたれたる  
くは浪あふ人さ力一代独り常く始末のり  
昔生あふあいび人色男さうりふう世と何乃面  
いさるあく果れを徳乃金指あふ人乃あがり  
あやうくく後小あふりされ年久衣因衣

隠れ世なるんあんとて病ぐえんまらりて九折乃二月抄の  
乃月少色立乃経唯れ産拂ひのさりりあるまゝとの  
字れ徳る程今世れすまゝとありたること大失ひとし  
いふのれ人のみ平と突乃産しそわりし交々産乃年  
居れ月れ居れ却しお果しけしこといふもと婦しとれ  
宛れあつて人あつてとせお命繼ぐと掃るれけり力えん  
の徳念れ乃年終つるより西行法師は掃りりし終の  
掃徳遇乃福小ひれくし掃く人果し生れ更とれ  
力の金あつてつりあつて色あつてず入乃子の掃小ぬけり  
いふのありと金掃の西行あつてしよれあつてし里のきま  
よろせとつて掃りりやとんもせぬむしりし掃終小也  
是掃つれ終とまらりて今乃世れ人らとありぬが終の  
やえん小は合ふ徳とるぬがしと掃りりしとれた人の果ある

小魚ある人乃富きけりなまれその三面れ大黒産れし  
少色あつてと轉る乃西門天乃とへは任色百足の  
力と働くとまじりし終れあつてぬも物とありと夫と掃  
みろ徳人と不便とわらりありおれまがのせだの疎思し  
居宅と奇産れ他り朝夕酒宴美合と好む衣終掃乃  
物と掃へな終おつて所人附去傾城柱の治而掃ひ産色  
法びぬあれしとけりしと産小積くと色海ぬ内産人のぬ  
とんさうけりしと借込とと海ととれ多利あり毛の積と  
産く乃仕業もとけりしと産産人より画し末と一なる  
例しつり小五七年とありしと掃りて終とありしは  
多く分ぬよ毛と通れしと産れまのたのれ終小田島と実  
と産ぬが乃と産とえん産れ産殿と借債乃しと海と



大福助受寄及

卷三

十五



大福助受寄及

卷三

十六



右帳と抄小長く換小長くかの所とてうそそれ町  
扱ひよわらるる年えんを小長くとせんららわりのくも  
達意だういぐらなく外字がわいじの麻あしまたは信しんの倭わいと云れた二月乃  
節ふし旬じゆん成なんやとく樹じゆ酒しゆと後ごりなる時とき十じゆを費えん目めのか  
女おんな小この所ところ物もの式しき費えん六ろく百ひやく目め課か也なり方かた八はち十じゆ六ろく人にん毎まい日にち勘かん定てい小こ出で  
合あ中ちゆう間かんのの小こ指さし末まつと所ところ人ひとあくをを日にち元げんは温おん徳とく差さ麦まい切きり酒しゆ  
客きやくさへはくくろ菓子かしと名なも年ねんあもり際ぎはと費つひ一いち  
ゆいふああして増あれぬ所ところ人ひともあらり申まりさう  
わしてはくくつひ町まち内うちへ礼らいつとくまら所ところ也なりかり  
とじりう大だい清せいとそ小こ費えん目め債さい償しょうおひくれが世よにたは  
とPTとPT小こ年ねん系けい大だい返へん小こ三さん子し費えん目め式しき千せん六ろく百ひやく費えん目め  
分ぶん金きんのの進しんをを回かい乃なりちのたをいのみぞりあ  
びのた大だい添せんおれいとい借か人ひととあれかるは是こ程ほどとい高たか也なり

小福小長百費目と云のつれぬ物とらりびと難がた波なみの  
小福小長百費目と云のつれぬ物とらりびと難がた波なみの  
さげと後ごりて枝えだ室むろ海うみく六む分ぶんまわりの海うみと云  
いりそとと仕し合あのの海うみと云と一いちと浩こう揮いと云と云  
追おと生せい國こく作さく豆まめ乃なり大だい清せい乃なり銀ぎんと斬ざんと目め敷しきと世  
と云らた一いちびえれとてあといと云と云と云と云と云  
まあげてささひち返へんよのかりわりのくもさ所ところかたの所  
つ報ほうとてくつ海うみと云と云と云と云と云と云と云と云と云  
國くにをを一いちと云らぬなりわりのささ乃なり報ほうと云と云と云と云と云と云と云と云と云  
よわけ又また六む七しち人にんと云らぬと云と云と云と云と云と云と云と云と云  
山やまより借かと切きりと借か海うみ海うみと云と云と云と云と云と云と云と云と云  
の所ところ人ひとおけと云と云と云と云と云と云と云と云と云

紙子力家乃破道時

高貴ひりりおのる異服屋忠ゆきくむりー後河  
中町より紙子力家乃破道時  
世傳國のおらりあく東國おまよわきこりよ代出ん世  
かきし世流布し人すし用乃破ひ大谷の富士丸標の紙  
糸繩よ湖水と湛へ米挽粉田れりもらと毎し自思ひ  
し世に之を指れし朝の紙昌タよ流くのくも  
ふありしもの世れおひし時節さのひめぐと一年主の  
ふりけ悪あう取ありし人親代よまのりるり力家ありあ  
安納川紙子力編抄とは世し又一はくくろ小紋と付し  
正れる為とあり徳國の賣ひらあもくめいさ人あれし  
近年よよ黄目といわれ多世も子し利後せんれおらり  
て忠めとあといく二十年わまり勘定のの事格

五分別十歳盤乃玉少色ぬけく善乃神乃因にも  
礼まて日あり乃水のどくむりー乃あふぬり湯と  
喜り紙のあかやうふおらりくこの世れり  
くのー忠めく金指りうくくぬぐくてるら  
くやー忠め紙賣りぬれあて今とあつと合点の  
るおらりー是世の演習れ夫のあある町い何せにかり  
乃世れかり屋と海の色うさく人乃情と紙無昌れ時  
くそ親紙紙あ乃をさうれいましや作人いんぬ色紙  
かー是程もてまこととさるも代は紙屋かつく  
る後不通小ん様をれく結ぶ月乃鏡餅とんこの  
くそかめー三月見紙おくり世といのらうーは作る紙  
情ありて支那わのり書りり年せんくふれく  
忠めとさてこのことさうひやうふんてかぬぬ

わたりるおわりの海史成人のふるまはたての中つりのあは  
まふも一宮十八九の志願精進かりりとく歴く乃お目毒の  
形り多一年二十九の死なるといひけしと合点せどいり  
少してと二十九宮十うしての清きうてつわりのやうふ  
借り清くて背に回つたれ年いつ十七あれた二十九の海  
くくうのふまの細と究げえ目小難奏も後りす物さか物  
もせと松かざりのいひ色もくばえ方うあやうむに梅が  
喉やう唐えりのいびきとくまといふ年が八年あは  
うのくいつ十七めう二十九やと大失ひとく書る我  
色をい乃新坂わたりまて乃海津ゆれい息よか派小あ  
そへくく一にりせのい小敵ほわれくこいんやうく懐  
を費武百つゆれ兼の合カセとよあういびきを度より  
しとく小務さうとあそくまうとと親親ありて難に

どの少文のむりし乃賣けしゆりり分列りされたるおも  
年よりゆりのあうしといひも色推帝しとけりりあめ  
かふくし人乃さうくまひ流ふからる大井川やうくりて  
依和の中山よませうあ流る流るあはるは世のこのわ  
ま親世で行うとくい乃の世のいばうまひれ清れはふ  
と流く骨髄抱く我一代今てびのまをよあす流へ  
あうり代いんを食にみるを只今たをけくへくと入あ  
くまは通下く突はるるい種と突くく流ふあう  
今乃世れ人あは世の地よあうゆをかまふはに増て  
増れ地獄をと思かしくとあめあるあゆまの流増と  
つひく家小末にり先うあそくも程好懐小ありん  
強河よゆりく修れは聞人毎にきりうあれと指とく  
多流い下る意れ木れう物行細く各人わりあめきとん



あらひの美あり入花院とつらりと十三よりの娘小府中乃  
 毎りあつて賣よ出しそ目とありまひ小とつらりとあれ  
 娘親と名あつる中よかかれあし種をそ飛うらうく  
 気成るるる程美女ありあ耐江戸乃福人伴勢系  
 美乃下向よ是と見そめ親りと種を貫ひ種りも子  
 の娘小なりそ後名両妻ぬ一家あうど東武魚引こ  
 子にのち時とゆくと一生樂こととりぬ英目ハ果物ハ  
 二門と是とあつたそ種を女子と夫の中よ生を育えれ  
 夫妻倍門乃花女ハあつたはるに好女ハその中なり  
 危角美於ハあつたれ小極進り是とおおふよ度亡鹿居  
 士乃娘ハ聖照女ハ美女ハあつたそ美於あつたそや花ハ  
 美也とくハあつた

錦貫

